



# 第13回自治体国際交流表彰（総務大臣賞） 受賞団体から学ぶ交流の取り組み

（一財）自治体国際化協会交流支援部交流親善課

## 自治体国際交流表彰とは

自治体国際交流表彰（総務大臣賞）は、日本と外国の自治体の姉妹自治体提携などに基づく交流活動のうち、創意と工夫に富んだ取り組みを行っている団体を表彰し、広く全国に紹介することによって、自治体国際交流の更なる活性化を図るとともに、地域の国際化に資することを目的としています。

## 第13回（2018年度）の受賞団体

第13回目となる2018年度は、27件の応募をいただき、有識者などで構成する審査委員会の審査を経て、次の3団体が受賞されました。

### ◆滋賀県

交流相手先：ミシガン州（アメリカ合衆国）

### ◆新城市（愛知県）

交流相手先：ニューキャッスル・アライアンス加盟都市  
（新城市を含む、15カ国の17都市）

### ◆立川・サンバーナディノ姉妹市委員会（東京都）

交流相手先：サンバーナディノ市（アメリカ合衆国）



鈴木総務副大臣を囲んで

そして、去る5月9日、総務省にて表彰式を開催し、鈴木総務副大臣から賞状と盾の授与が行われました。

今回、受賞された3団体は、それぞれユニークで活

発な活動をされています。審査会において評価されたポイントの概要はこちらです。

### 【評価ポイント】

#### ◆滋賀県

湖という地域の特性を生かした50年にわたる交流の成果が、日米双方の若者への教育機会の提供、市民交流の促進など多方面に現れている。また、県内11市町が州内13市郡区と姉妹都市になっていることは、県民・市民の間に交流事業が定着するうえでも有意義であり、県レベルの国際交流の範となる。

#### ◆新城市（愛知県）

都市名にちなんで国際的なアライアンスを創るという発想がユニークであるだけでなく、15カ国17都市の加盟まで拡大し、若者の意見交換やビジネスフェアなど交流を多面的かつ実質的なものとしている。また、行政のみならず、市民各層や経済団体が事業に参画しており、裾野の広がりが感じられる。

#### ◆立川・サンバーナディノ姉妹市委員会（東京都）

約60年にわたって高校生交換事業を継続し、多くの若い人材育成に貢献しており、確実に成果が生まれつつある。行政主導から委員会主導へと自立化が図られ、市内の各種団体の協力を得ながら派遣生OB・OGやその親が中心的な担い手となるなど、発展段階の中で進化がみられる。

それぞれの団体におきましては、今回の受賞を励みとして、今後とも活発な国際交流を続けていただきたいと願っています。

次のページからは各受賞団体における具体的な取組内容をご紹介します。（新城市については、特集12、13ページをご覧ください）



今年度も秋に募集を行います。各自治体で行っている活発な取り組みを全国へ発信するため、多数のご応募をお待ちしております！

## 滋賀県

【交流相手先：ミシガン州】

### “Looking to the Next 50 Years”

滋賀県は、日本一の「琵琶湖」をはじめとする自然と文化に恵まれたものづくり県であり、古くから交通の要衝として、多様な文化の交流の場ともなってきました。

1968年11月、「琵琶湖」を擁する滋賀県とミシガン湖などの五大湖に囲まれたアメリカ合衆国ミシガン州は、さまざまな分野の交流を図り、両県州の相互の発展につなげようと、姉妹県州協定を締結しました。以来、重層的な交流を重ね、2018年に50周年を迎えました。

姉妹協定締結後、両県州の幅広い交流を推進するため、1976年から毎年、両県州の友好親善使節団を派遣し合ってきました。県民にとっては、外国の湖の美しさを知り、米国の家庭の文化に触れる貴重な機会です。また、ミシガン州からの使節団を県内の各家庭で受け入れ、両県州民の交流を深める本格的な取り組みです。この取り組みがさまざまな草の根交流や教育・文化の交流、環境交流などへと発展していきました。ミシガン州訪問をきっかけに、国際的なキャリアの道に進まれる方もおられます。多くの県民の人生に新たな道を拓く、大切な事業ともなっています。



滋賀県ミシガン州姉妹提携50周年記念事業における三日月滋賀県知事（右）、スナイダー ミシガン州知事（当時）（中）、（公社）滋賀県書道協会 神田理事長（左）の3人による記念揮毫

両県州の姉妹提携20周年を記念し、1989年、滋賀県彦根市に設立されたのが、ミシガン州立大学連合日本

センター（JCMU）です。滋賀県が施設を整備し、ミシガン州立大学連合が運営する画期的な国際交流事業で、日米双方の人々がともに語学や文化、習慣などについて相互の理解を深めてきました。存続の危機もありながら、それまでの友好親善をベースに多くの人々の努力や工夫が重ねられ、滋賀県とミシガン州との架け橋になる人材が育つ、そんな貴重なプログラムとして、現在も友好関係を支えています。

JCMUの講座は「ミシガン州学生向けの日本語・日本文化講座」、「日本人向けの英語講座」など、双方にとって学びがあるプログラムになるように工夫されています。

JCMUで学ぶ学生たちは、祭りやイベントに参加するなど地域との交流も重ね、プログラム修了後は、日本国内や米国の国際的な分野で幅広く活躍しています。

次なる50年に向けて、今後も、青少年の交流をより活発に行い、文化・芸術・スポーツの交流を深めるとともに、経済交流の発展にも努めてまいりたいと考えています。



JCMUの学生による「書道」体験

## 立川・サンバーナディノ姉妹市委員会 (東京都)

【交流相手先：サンバーナディノ市（アメリカ合衆国）】

### 姉妹市提携 60 周年の歴史

立川市と米国カリフォルニア州サンバーナディノ市には当時、面積・産業・交通など、類似点が多く、また、サンバーナディノ市およびその周辺には日系アメリカ人も多く、日米親善にも有意義ということから、立川航空基地情報部に姉妹都市縁組斡旋の依頼がありました。昭和34年（1959年）に立川市とサンバーナディノ市は姉妹市提携を締結しました。この姉妹都市提携は東京都では初めての試みであり、全国では21番目にあたります。

昭和35年（1960年）には推進の母体となる立川市姉妹市委員会が結成されました。



みなさんでお迎え。サンバーナディノ市から交換高校生が来日しました！

姉妹市活動のハイライトとして計画された両市高校生の親善交換訪問は、昭和37年（1962年）6月23日サンバーナディノ市の高校生3人が立川市を訪れて以来の制度です。彼らは約1カ月間にわたり里親宅にホームステイし、立川市の高校生・市民との交歓を行って帰国しました。それとともに、立川市の高校生3人も、サンバーナディノ市を親善使節として訪問しました。

しかし、昭和39年（1964年）になると諸般の事情により中止の止むなきに至ってしまいました。将来の世界市民としての青少年の育成を理想の下に発足したばかりのこの芽が僅か2年にして摘み取られてしまう状況を黙視できず、立川ロータリークラブが立ち上がり、姉

妹市事業の継続のために全会員から募金を募るなどの努力がなされました。その結果、市当局および諸団体の理解と協力を促すところとなり、昭和40年（1965年）に再開されることになりました。



1カ月滞りし、歓送会を開催

今では、立川市をはじめ市内6団体（ロータリークラブ、ライオンズクラブ、ソプロチミスト、青年会議所など）の支援と協力を得、加えて委員会会員組織も充実し、毎年両市の高校生交換事業は促進され、市民にも広く知られる活動となっています。

派遣高校生たちはそれぞれの里親宅に1カ月ずつ交互にホームステイし、異国の生活、文化、風土を体験します。若い時に自国と違う文化などに触れることは大いなる感動であるでしょうし、視野を広げ、まさに世界市民への自覚を促すことでしょう。派遣生OBには国際的に活躍している人も多く、また表に出ずともそれぞれの立場で派遣生だったことの誇りを胸に頑張っています。

サンバーナディノ市とは周年ごとに訪問団が訪問しあって親善を深めており、若者の国際交流の意義を再確認し今後のより良い委員会活動を展開してまいります。



姉妹市交流はこれからも続きます